

3月の安全運転のポイント 平成22年3月号

平成22年の交通事故による死者数は4,914人で、9年連続の減少となるとともに、昭和27年以来5年ぶりに4千人台となり、最も死者数の多かった昭和45年(16,765人)の3割以下となりました。また、負傷者数も前年を下回っています。

今月は平成22年の交通死亡事故の主な特徴をまとめてみました。(資料は、警察庁「平成22年中の交通死亡事故の特徴及び道路交通法違反取締り状況について」による)

平成22年の交通事故発生状況	発生件数	736,688件 (前年比 - 29,459件 - 3.8%)
	死者数	4,914人 (前年比 - 241人 - 4.7%)
	負傷者数	910,115人 (前年比 - 35,389人 - 3.7%)

*発生件数とは、人身事故件数であり、物損事故は含まれていません。
*死者数とは、交通事故発生から24時間以内に死亡した人数をいいます。

交通事故による死者の2人に1人は65歳以上

年齢層別に死者数をみると、65歳以上が2,452人で全体の49.9%を占めており、交通事故による死者の2人に1人は65歳以上の方となっています(図1)。

また、65歳以上の死者数を状態別にみると2,452人のうち1,202人(49.0%)が歩行中、445人(18.1%)が自転車乗用中となっており、両方で7割近くを占めています。歩行者や自転車にもよく目を配り、思いやりの気持ちをもった運転を心がけましょう。

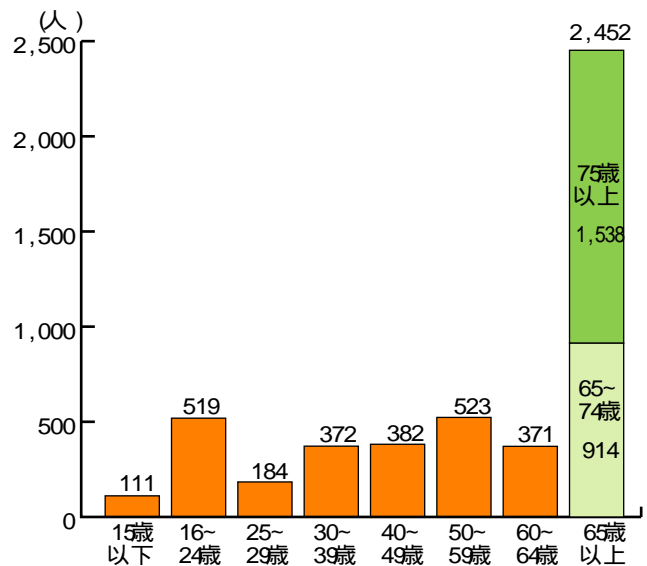


図1 年齢層別死者数 (平成22年)

車両相互の事故では「出会い頭衝突」が最も多い

死亡事故件数を事故類型別にみると、車両相互が2,092件(43.8%)、人対車両が1,660件(34.8%)、車両単独が988件(20.7%)となっています(図2)。

このうち、車両相互の事故では「出会い頭衝突」が765件(16.0%)で最も多くなっています。見通しの悪い交差点などでは、安全確認を確実に行きましょう。

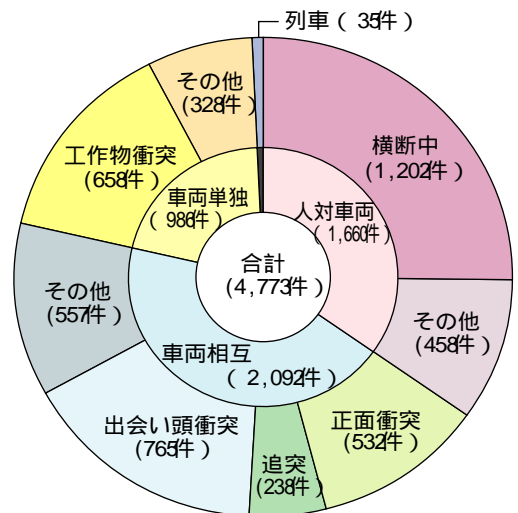


図2 事故類型別死亡事故件数 (平成22年)

「交差点とその付近」での事故が半数近くを占める

死亡事故件数を道路形状別にみると、交差点内が1,805件(37.8%)、交差点付近が490件(10.3%)を占め、交差点内と交差点付近を合わせると48.1%となり、死亡事故の半数近くが交差点内とその付近で発生しています(図3)。

交差点は最も事故の起こりやすい場所ですから、周囲の交通状況に十分注意して、慎重な運転を心がけましょう。

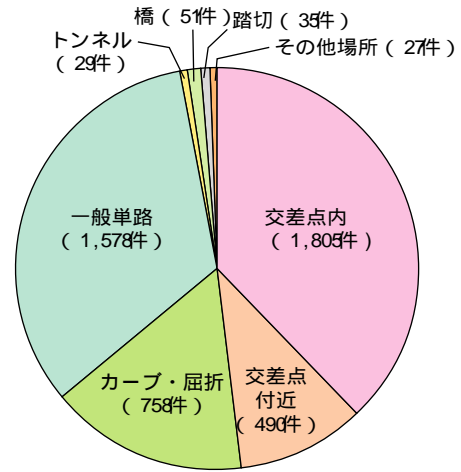


図3 道路形状別死亡事故件数(平成22年)

「漫然運転」による死亡事故が最も多い

自動車等(原付以上)運転者が第1当事者となった死亡事故件数を法令違反別にみると、「漫然運転」が728件(16.6%)と最も多く、次いで「脇見運転」656件(14.9%)、「安全不確認」483件(11.0%)の順となっています(図4)。

ハンドルを握ったら運転に集中し、どんなときでも油断したり気を緩めたりせず、周囲の状況にしっかり目を配って走行しましょう。

*第1当事者とは、最初に交通事故に関与した車両等の運転者または歩行者のうち、当該交通事故における過失が重い者をいい、過失が同程度の場合は人身損傷程度の軽い者をいいます。

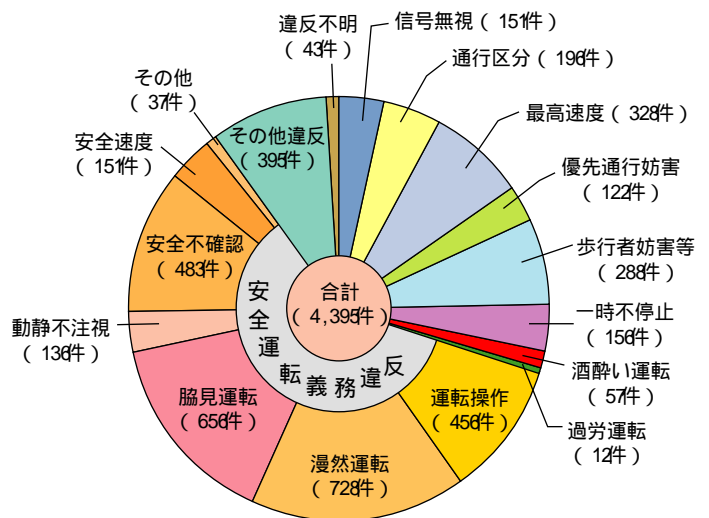


図4 自動車等(原付以上)運転者(第1当事者)の法令違反別死亡事故件数(平成22年)

飲酒運転による死亡事故は小幅な減少にとどまる

自動車等(原付以上)運転者が第1当事者となった飲酒運転(酒酔い運転・酒気帯び運転)による死亡事故件数は292件で、平成12年以降着実に減少してきています(図5)。

ただ、前年比では13件減(-4.3%)と小幅な減少にとどまっており、今後さらに「飲酒運転をしない、させない」を徹底し、根絶を図っていく必要があります。

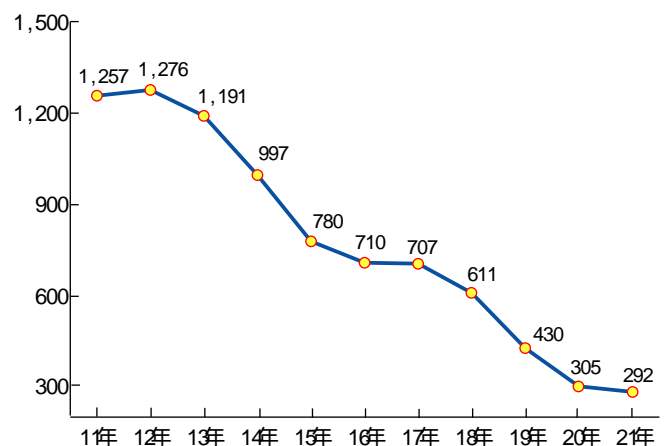


図5 自動車等(原付以上)運転者(第1当事者)の飲酒運転による死亡事故件数の推移(平成22年)

「ご相談・お申込先」